

第3回第6部会(H29.6.30開催)での主な意見と対応

資料3: 施策区分別の個別事業

	区分	主な質疑内容	回答・対応等
①	新規事業について	総合計画は10年間を対象とし、うち前期基本計画は5年、その中で第6部会での新規事業は2件のみであり、他は全て継続業務である。第1次計画からあまり大きな変化が期待できないように見えるが、どう考えるか。	新規が2つとなったのは、大きな策定の柱として、財政見通しの範囲内で、実効性に配慮した計画とすることが黒部市の柱であるため、結果として2件となったことをご理解いただきたい。逆に新規事業については、委員からご意見をいただければと思う。事業リストはあくまでも現段階のものであり、庁内でも今後さらに検討を進めていく予定です。
②		第1次総合振興計画から変わった事業はあるのか。	これまで人権尊重と男女共同参画を1つにしていた施策中分類を、人権に関して厚くした経緯があります。また、第3部会の都市基盤の情報通信整備を第6部会扱いいたしました。さらに、計画的行政運営の推進について、公共施設の適正配置については新たな視点として入れています。
③		重点項目に6つ丸がついているが、せめて重点項目については、新規事業を盛り込み、前期基本計画の特徴や意思を見せる必要があるのではないか。	「重点」に丸が付いているのは、24のメニューの中でも重点的に取り組むものであり、新規事業があるから重点化するという訳ではありません。
④	事業実施期間について	ほとんどの年次に黒丸が入っておりメリハリが無いように見えてしまう。	全てに丸がつかない事業は、ハード的なものになろうかと思います。ソフト事業はずっと継続するものが多いと考えられます。
⑤		基本計画で10年をイメージしているが、前期計画で後期に全て丸をつけるのはいかがなものか。空欄とすべきではないか。	基本計画は前期・後期に分かれるが、総合振興計画(基本構想)自体は10年が基本となります。また、行政サービスの一貫性という意味では、後期の実施期間も示した方がよいと考えています。
⑦	6-3「人権尊重と男女共同参画社会の推進」	人権相談体制の整備については、人権問題に関する他市の関連部局・団体との連携について、この文章で読めるのかが気になる。現在、黒部市では人権擁護委員が8名と非常に少ない状況であり、特に人権活動は他団体と連携しないと取り組みが広がらない。それぞれが勝手にやっている状態は問題である。この文章で表現しきれぬのか。	国からの指針を受けて人権擁護の推進をさせていただいており、活動に際しては市民環境課が窓口となるが、相談内容全てを人権擁護団体にお知らせすることは難しい。ただ、なるべく人権擁護委員の活動が容易となるお手伝いを進めていきたい。
⑧		特定の団体の名称が入っているが、この表現だと、同団体以外の新たな団体は認めず、特定の団体に投資し続けるのかという議論になってしまう可能性があるため、固有名詞の使用は避けた方が良い。	固有名詞を使用しないことで文言を修正します。

資料4:協働体制・市民等へのメッセージ・主な指標と目標値

	区 分	主な質疑内容	回答・対応等
⑨	主な指標と目標値の設定について	効果を検証するためには、個別事業ごとに目標値を設定するべきではないのか。	総合振興計画については、目標値は、計画の取組全体としての判断をするものだというご理解願います。
⑩		目標値は年単独なのか、その時点での累計値なのか。単年では、推移が分からないのではないのか。	年単独・累計どちらもある。数値は毎年把握し、公表していく予定であるため、推移は把握できます。
⑪	主な指標と目標値 6-4「開かれた行政への取組み」	「職員出前講座を活用し、市民生活を豊かにしましょう」について、どう理解すればよいのか。	メッセージを削除します。
⑫	主な指標と目標値 6-6「計画的行政運営の推進」	「市民と行政が一体となって計画的・効率的な行政運営を進めましょう」について、市民は行政運営をできるのか。他の表現とすべきでは。	メッセージを「市の行政運営に関心を持ちましょう。」に修正します。